

平成 21 年 5 月 25 日

各 位

不動産投資信託証券発行者名

東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号
六本木ヒルズ森タワー
ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代表者名 執行役員 鈴木 博之
(コード番号: 8981)

資産運用会社名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

代表者名 代表取締役 鈴木 博之
問合せ先 管理本部長 板橋 昇

TEL. 03-6439-0333

2009 年 4 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2009 年 4 月度の月次総売上高並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人である株式会社ホテルマネージメントジャパンから開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

ホテル／項目		4月度	対前年 同月増減	累計	対前年 累計増減
神戸メリケンパーク オリエンタルホテル	稼働率	63.4%	-16.5%	73.0%	-3.4%
	ADR (円)	13,777	-155	15,486	279
	RevPAR (円)	8,732	-2,393	11,301	-308
	売上高 (百万円)	441	-101	4,088	-419
オリエンタルホテル 東京ベイ	稼働率	65.4%	1.3%	86.5%	7.5%
	ADR (円)	17,553	-2,072	18,610	-593
	RevPAR (円)	11,474	-1,097	16,093	924
	売上高 (百万円)	450	-42	4,590	62
なんばオリエンタルホテル	稼働率	76.5%	-7.3%	79.9%	-7.6%
	ADR (円)	10,012	-410	10,504	-41
	RevPAR (円)	7,659	-1,069	8,395	-835
	売上高 (百万円)	145	-10	1,226	-91
ホテル日航アリビラ	稼働率	77.6%	-6.1%	74.4%	0.9%
	ADR (円)	20,517	-2,071	22,013	156
	RevPAR (円)	15,928	-2,979	16,382	324
	売上高 (百万円)	388	-62	3,110	-33
オリエンタルホテル広島	稼働率	67.3%	10.2%	71.6%	12.9%
	ADR (円)	8,597	-123	8,904	234
	RevPAR (円)	5,783	808	6,375	1,284
	売上高 (百万円)	168	8	1,449	144
上記5ホテル合計	売上高 (百万円)	1,593	-206	14,464	-337

4 月度の実績に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（資産運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、ビジネス層向けの宿泊商品が好調だったものの、ゴールデンウィーク前半の日並びの影響等もあり平日のレジャー需要が昨年と比して低調に推移したため、売上は前年を下回りました。料飲部門では、一般宴会売上は件数増により前年を上回ったものの、婚礼件数が減少し、料飲部門全体の売上は前年を下回りました。その結果、ホテルの総売上は、前年同月を約101百万円下回りました。

オリエンタルホテル 東京ベイ（旧：新浦安オリエンタルホテル）について

宿泊部門では、稼働率は前年同月を上回ったものの、TDR25周年イベント終了の影響等によりADRは下回り、結果として売上は前年同月を下回りました。レストラン部門においては、昼食売上は好調に推移したものの、個人の宿泊客が減少したことによる朝食売上の減少等により前年同月の売上を下回りました。宴会部門では、一般宴会売上は底堅く推移したものの、婚礼宴会売上は弱含んで推移いたしました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約42百万円下回りました。

なんばオリエンタルホテルについて

宿泊部門は、春休み・桜シーズンの前半はレジャーを中心に底堅く推移したものの、四月全体では円高を受けた韓国インバウンドの減少、等により、稼働率、ADR共対前年同月を下回り、売上も前年同月を下回りました。結果的にホテル総売上は前年同月で約10百万円下回りました。

ホテル日航アリビラについて

宿泊部門では、ゴールデンウィーク前半の日並びの影響等もあり沖縄本島への入島者数の減少が対前年比で進む中で、ADR、稼働率共対前年比で低下し、売上が前年を下回りました。料飲部門も、宿泊者数の減少を主因に売上が前年を下回りました。結果として、ホテルの総売上は前年を約62百万円下回りました。

オリエンタルホテル広島について

宿泊部門では、競合各社が軒並み前年を下回る中、予約ソースの拡充、積極的なインターネット販売を中心に競争力が向上したこと、及び前年の客室改装による売上が今年度は発生しなかったことにより売上が前年を上回りました。料飲部門においては、レストラン部門は前年同月を上回り、宴会部門は、婚礼宴会が件単価増により前年を上回り、一般宴会は件数増により前年を上回りました。その結果、ホテルの総売上は前年同月を約8百万円上回りました。

-
- 注 1) 上記のコメントは運用会社が賃借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。
- 注 2) 各月の数字については監査等の手続を経ないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合もあります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。
- 注 3) ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を除きます。）を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。
- 注 4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。
- 注 5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。
- 注 6) オリエンタルホテル広島については平成19年10月1日取得のため、対前年同月及び累計増減の算出基礎となる平成19年9月の数値は、未監査です。
- 注 7) 対前年同月増減とは当該月と前年同月との増減を記載しています。
- 注 8) 累計とは当期期首から当該月までの累計値を記載しています。
- 注 9) 対前年累計増減とは、当期期首から当該月までの累計値と前期期首から前年該当月までの累計値との増減を記載しています。

以上

* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>